



Phenomena Internship

画面デザイン

2017 スマホ電話アプリ

東北芸術工科大学
デザイン工学部 プロダクトデザイン学科 3年
期間：2017年9月12日～9月15日

SEPTEMBER 2017

一般向け

提供方法：自分でダウンロードして使用

主に若者をターゲットとしている。現在の若者が抱える正規の電話アプリに対する不満点として若者にしては手間が煩わしいという問題がある。

現在の若者はスマートフォンを使い慣れている世代であり色々な操作への対応力が高いという特徴がある。

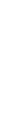


マルチタッチなどを使った素早く手間のかからない操作と
不要な情報を削ったミニマルな画面

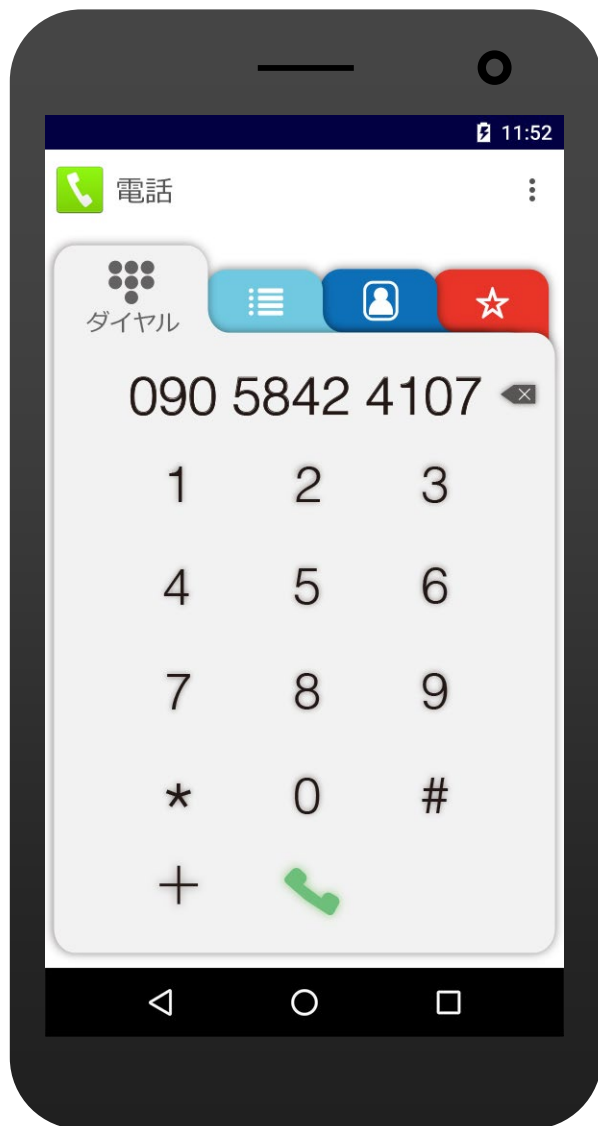
シニア向け

提供方法：もともと端末にダウンロードしてある状態で使用

65歳以上のシニア層をターゲットとしており、シニア層に向けたスマートフォンに入っているアプリと想定する。現在の高齢者が抱える問題として、押せるか押せないかの判断が難しいという点と操作が複雑という点が挙げられる。



実際のボタンに近い押しごこちや、認識のしやすさと簡単な操作と、操作の誘導



concept

マルチタッチによる操作とミニマルな画面デザインの電話アプリ

マルチタッチでの操作

タブ形式による画面の切り替えにすることでフリック操作での切り替えの誘導であったり、初回のみアニメーションでのマルチタッチの説明。



ミニマルな画面配置

キー同士の区切りがなくすることですっきりとした印象を持たせ文字情報を少なくしメインの機能を強調しより操作しやすい画面設計。さらに数字にシャドウを落とし強調するとともに押しやすいキーとなっている。

片手での操作

若者が主なターゲットなので片手操作が基本となるためキーをより中央寄りに配置することで片手での操作性をより高めた。

ダイヤル画面(シニアユーザー向け)



concept

**簡単な操作感とスマートフォンに慣れない人でも
操作のしやすい電話アプリ**

簡単な操作感

基本的にフリックなどの複雑な操作は使わず一本指でのタッチのみで操作が可能。ボタンにモーションをつけることで次の行動を誘導させよりスムーズに操作が可能になる。



シャドウの色、強弱でのモーション

シニアへの配慮

押せる場所はボタンを作り押せない場所との区別をつけ理解のしやすさを高めた。さらに誤操作の軽減のためボタンを大きくし、一つ一つを区切って配置した。

さらにボタンの下に説明を加え文字を大きめに設定し認識がしやすいようにした。

色数を少なくしシンプルに見せることでシニア層にも使いやすく親やすさを与えるため背景色など白に近いグレーをメインに使用した。